

1. 評価結果

概要表

作成日 平成 20年 1月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2770107411
法人名	有限会社 イークォル
事業所名	グループホーム 和の家
所在地	大阪府堺市北区上野芝町2丁287 (電話) 072-255-7618
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成19年12月19日

【情報提供票より】 (19 年 11 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 1人, 常勤換算	16.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (180,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (11 月 5 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	3名	要介護 2	5名		
要介護 3	10名	要介護 4			
要介護 5		要支援 2			
年齢	平均 82.3 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 大泉会 いずみクリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム和の家」は、JR阪和線上野芝駅から徒歩7分の、閑静な住宅街の中にある。周辺には仁徳陵古墳を始め、いたすけ古墳や大仙公園などがあり、四季の変化を感じながら散歩を楽しむ事ができる環境である。職員全員が「地域密着型」の意義を理解し、地域に開かれたグループホームとして存在している。自治会への加入と共に、老人会のサークル活動への参加、「和祭り」「喫茶和」といった企画を通じて地域の高齢者のみならず子供をもホームに招き入れるなど、地域との交流に成功しているグループホームとして大いに評価したい点である。また、アセスメント記録、介護計画書をはじめ日々の記録を詳細に記入し、その内容も充実している。記録から導き出した利用者一人ひとりの課題・ニーズに対し、主体性を大切にしながら個別ケアを実践している。利用者の表情も明るく、職員と共に穏やかな時間を共有している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価での改善点に関しては法人代表と共に改善に向け前向きに取り組んでいる。職員の勤務体制について見直しを実施し、ユニットごとの勤務形態を同一にし、一体化した勤務体制に整えている。外部研修の機会も介護支援専門員やユニットリーダーだけでなく介護職員の参加も奨励し、職員の質の向上に取り組んでいる。一方、ユニット間での職員同士の話し合いが不十分であり、今後は各ユニットの良いところを他のユニットに活かしていくことに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と計画作成担当者が中心となり自己評価を実施している。各職員はグループホーム独自で作成した自己評価票を基に改善点等の洗い出し、面接による話し合いを行っている。外部評価は各職員ともその意義を理解し改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回の頻度で開催している。会議は市職員、自治会長、老人会会長、家族、職員等で構成され、ホームでの暮らしぶりや活動状況等が話し合われている。会議の中で職員の名前が覚えにくいという意見に対し、写真入りネームボードを玄関に掲げる等対応を行っている。また、「ホームが地域の財産となる取り組み」と言った大きな課題に向けた提案などに対してホーム長を中心に地域との交流に特に力を入れ成果を上げている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) これまで不定期に発行していた「和の家便り」を毎月発行とし、地域回覧用のほか、家族向けのものも発行し、それぞれに必要な情報提供を行なうなど報告ツールの充実を図っている。意見箱の設置や面会時の聞き取りの他、運営推進会議の出欠届(全家族宛に往復はがきを送付)に、家族からの苦情や意見等の記入欄を設けるなど、意見等を汲み取る工夫が見られる。意見等は全体会議等で報告し改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入しているだけでなく、「和祭り」や「喫茶和」といったイベントを通じて、地域住民をグループホームに呼び込む取組を積極的に行っている。また、老人会のサークル活動への参加や老人会の方を講師として招いたり、グループホーム内で職員が講師となって手芸教室を開くなど様々な工夫を凝らし、地域との交流に特に力を入れている。さらに、日常的に数多くのボランティアを受け入れ利用者と活発に交流が行なわれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの意思を尊重し、よく理解して、安心と豊かな暮らしを地域とともに支えます。」という地域密着型サービスの目的に沿った独自の分かりやすい理念を定めている。理念は訪問者がすぐ目に付くよう、玄関ホール正面に立派な書にして掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時やミーティング等において理念の意義を説明し、ホーム長を含め各職員は理念の共有、理念の実践に向け取り組んでいる。日々のケアや行事、地域の方々との交流の場においても、常に理念に則した活動が行われているのかを検証、確認できる体制が整っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しているだけでなく、「和祭り」や「喫茶和」などのイベントを通じて、地域住民をグループホームに呼び込む取り組みを積極的に行っている。また、老人会のサークル活動への参加、老人会の方を講師として招いたり、グループホーム内で職員が講師となって手芸教室を開くなど様々な工夫を凝らし、地域との交流に力を入れている。さらに、日常的に数多くのボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長と計画作成担当者が中心となり自己評価を実施している。各職員はグループホーム独自で作成した自己評価票を基に改善点等の洗い出し、ホーム長と面接による話し合いを行っている。外部評価は各職員ともその意義を理解し、改善に向けた取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回の頻度で開催している。会議は市職員、自治会長、老人会会長、家族、職員等で構成され、ホームでの暮らしぶりや活動状況等を話し合っている。会議の中で職員の名前が覚えにくいという意見に対し、写真入りネームボードを玄関に掲げる等対応している。また、「ホームが地域の財産となる取り組み」と言った大きな課題に向けた提案などに対してホーム長が中心となり地域との交流に特に力を入れ成果を上げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の疑問点や報告事があれば、地域包括支援センターや堺市とコンタクトをもつなど、積極的に市担当者に情報提供を行い、市との連携を保ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	これまで不定期に発行していた「和の家便り」を毎月発行とし、地域回覧用のほか、家族向けのものも発行し、それぞれに必要な情報提供を行なうなど報告ツールの充実を図っている。また、少なくとも月に1回は家族と面会し、個別に日常の生活ぶりを口頭で伝えている。さらに利用者の様子や体調の変化がみられた場合にも電話やFAXで状況報告を行っている。毎月発行している「和の家便り」家族版に利用者一人ひとりの様子を紹介する個別のコメント欄を設けるなど、更なる工夫に期待したい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時の聞き取りの他、運営推進会議の出欠届（全家族宛に往復はがきを送付）に、家族からの苦情や意見等の記入欄を設けるなど、意見等を汲み取る工夫が見られる。意見等は全体会議等で報告し改善に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員については採用後すぐの退職がみられるが、特に離職に伴い利用者への影響が懸念されるケースは少ない。異動については、一部ユニット間の異動が見られる程度で、利用者へは十分時間をかけコミュニケーションを取る事で対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他のグループホームと相互に職員を交換して研修を行なうなど、ユニークな職員研修を実施している。研修では相互に良かった点や悪かった点を指摘しあうことで、職員の新たな発見や気づきに結びつけている。また、グループホーム内での月1回の勉強会では、外部研修の内容をフィードバックし、職員のレベルアップに繋げている。外部研修には介護支援専門員やユニットリーダーだけではなく介護職員の参加も奨励している。今後は各ユニットの良いところを他のユニットに活かし、共に学びあう体制作りに期待したい。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームとの交換研修の他、区内のグループホームで組織している連絡会に参加し、情報の交換や勉強会等を実施し交流を図っている。また、市内のグループホーム間で互いの行事への参加等で利用者同士の交流も行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族の不安を軽減し安心してサービスを利用できるよう、1週間程度の体験利用を実施している。また、グループホームの雰囲気を感じつつ徐々に馴染めるよう日中のみの体験利用も可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活のなかで利用者が主体的に活躍できる場面を作ること大切に支援している。元大工の棟梁だった方には柵作りの協力を求め「これは俺に任せろ」と言う言葉を引き出せるような出番作りを行うなど、職員が利用者「有難う」と言える場面作りに努めている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりにセンター方式を用いてアセスメントを行い利用者や家族の希望を聞取っている。また、利用者一人ひとりに担当職員を配置し利用者のより細かな情報の収集・蓄積を実施し、アセスメントの充実を図っている。さらに、定期的に記載内容を振り返りケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントから導き出した課題やニーズを基に個別具体的な目標設定を行いケアプランを作成している。プランに沿って介護リーダーが利用者一人ひとりのケアのポイント、精神面での対応策を具体的に記載し、職員全員が共通した認識を持ち対応できるよう記録内容の充実を図っている。日々の記録にはケアプランの目標に沿って実施状況を記録できる書式となっており、日々の業務に流されることなく目標をもちケアに取り組む事ができるように工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標は3ヶ月に一度、長期目標は6ヶ月に一度サービス担当者会議を開催し、達成状況の把握や新たな課題の抽出に努めている。会議には担当職員、ホーム長、介護リーダーが参加している。参加できない職員からの意見も口頭や書面にて確認し活かしている。利用者の状態により入所後の不安定な時期や、混乱が見られる場合には随時家族を交えて話し合いを行っている。今後の取り組みとして家族に担当者会議への参加を促していくことを掲げている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方が自由に参加できる手芸教室の開催や月1回コーヒーとケーキを提供する「喫茶和」を開催するなど、グループホームを社会的資源の場として活用している。また、年1回利用者の希望やニーズを叶える日を設定し、利用者にとってこだわりのあるお店へ出かけたり、専門店での外食、墓参りなど様々な個別の希望に応えられるよう柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助は基本的には家族対応である。利用者の身体状況を把握していただく為にも家族介助は大切であると考えているが、困難な場合は職員で対応している。また、認知症専門医への受診の際には日頃の詳細な状況報告が必要な場合が多く出来る限り家族と共に職員が同行している。訪問医療・訪問歯科・マッサージなどは入所時に家族の希望を聞き取り適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「看取りに関する指針」を説明している。現在までのところグループホームでの看取りはないが、利用者の状況の変化に対応できるように家族との話し合いを進め、医師、看護師と連携をとりながら必要な支援を行なうこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	理念を大切にしながら利用者一人ひとりを尊重したケアを行なうよう取り組んでいる。職員の声かけなどまだまだ不十分なところもあると認識しているが、その都度声かけの仕方や接し方を指導し職員の注意を促すように取り組んでいる。職員は対応の仕方やケアの方法で悩んだ時には、理念の言葉を振り返りの原点とし、そこから解決策を導き出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や日常のレクリエーションの計画を作成する際も利用者の思いやペース、利用者が主体となった計画であるかを検証しながら行っている。また、普通の暮らしの生活リズムを大切に、スケジュールで動くのではなくその日の天候や気分、何をしたいかを聞き取りながら、散歩や買い物、ドライブ、歌やビデオ鑑賞など利用者の思いを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から購入しメニューも1ヶ月単位で決定している。その中で朝食パンに関してはジャムやバターを選択、焼く、焼かないなど希望を聞取っているが、副食の変更や希望をかなえることは難しい。午後3時には近くの喫茶店に出かけたり、外食(回転寿司・中華など)の機会を持っている。また、食材購入をキャンセルし鍋料理を行なうなど、利用者の声に耳を傾けながら出来るだけ希望に添えるよう取り組んでいる。利用者の能力に応じて下膳や洗い物などをケアプランに盛り込みながら主体的に活動できるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く、手すりの設置と共に車椅子対応が可能なシャワー浴も整備している。基本的には週2回午前中の中の入浴としているが、希望があれば入浴時間を午前から午後、週2回のところを週4回と個別に対応し記録している。入浴回数の少ない方には日曜日に予備日を設けて声掛けを行ない対応している。利用者の希望を聞き取り十分対応していることは確認できるが、今後希望を出しにくい利用者も多くなることを考慮しながらさらなる工夫に期待したい。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の輝いていた頃の仕事や趣味を参考にしながら一人ひとりの能力が発揮できるような場面作りを行っている。砥石を利用して包丁砥をお願いしたり、針仕事や大工仕事など役割を持つことが出来るよう支援している。また、多くのボランティアが訪問し歌や民謡、ちぎり絵、腹話術、傾聴ボランティアなどを取り入れ楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺には仁徳陵古墳を始め、いたすけ古墳や大仙公園などがあり、季節の変化を楽しみながら散歩することができる環境である。日常的にグループホームに閉じこもらないケアを実践し、敷地内の農菜園や花壇の手入れ、外出の機会を多く取り入れている。また、老人会のゲートボールに参加したり、買い物や外食、命日の墓参りや自宅近くの友人宅に出かけるなど個別の外出支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することを常態化していない。入所後すぐに帰宅願望の強い利用者には納得が行くまで寄り添いながら一緒に外出できるよう支援している。職員は閉じこもりからおこる弊害をよく理解し、出来るだけ風通しの良いグループホーム作りに力を注いでいる。積極的な外出と共に、近隣住民が気軽に訪問できる機会を数多く提案し実施している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防訓練を実施している。事故対応マニュアルには緊急搬送時に10分以内にグループホームへ駆けつけることが可能な職員体制など具体的な内容を記載している。防災マニュアルも作成しているが、具体的な応援体制や避難体制を明記した内容の検討が望まれる。	○	運営推進会議等を活用し、災害防止策としてグループホームが地域に還元できることも含め、地域消防団や住民の協力体制が得られるよう前向きに話し合いを進めていくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者委託で栄養士によるカロリー計算が行なわれている。食事摂取量や水分摂取量は個別に記録しており、水分摂取量は1000~1200ccを目安に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	女子寮を改装したグループホームで居間は広く対面式のキッチンを備え付けている。利用者と職員が会話を楽しみながら一緒に調理できる広さがある。日中の多くの時間を過ごす居間は、利用者の手作りの手芸品や写真、地域の方から頂いた季節感溢れる写真などを掲示している。食後には利用者同士の会話や一人が歌を歌いだすと職員と一緒に楽しげな合唱が始まり利用者の表情も明るい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は一人ひとり馴染みのベッドや家具、調度品などが持ち込まれ個性豊かである。若かりし頃の写真や家族の写真、趣味の手芸用品や仏壇など自分の居室として安心して過ごすことができる居場所となっている。		

※  は、重点項目。